

NetBackup™ バックアップ、 アーカイブおよびリストアス タートガイド

リリース 10.2

NetBackup™ バックアップ、アーカイブおよびリストア スタートガイド

最終更新日: 2023-04-28

法的通知と登録商標

Copyright © 2023 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Veritas Alta、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティ製プログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC

2625 Augustine Drive

Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、Veritas の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	概要	5
	バックアップ、アーカイブおよびリストアについて	5
	バックアップについて	5
	アーカイブについて	6
	リストアについて	6
	ポリシーについて	6
	バックアップイメージについて	6
	インストールおよび構成について	7
	オンラインヘルプについて	7
第 2 章	開始	8
	UNIX システムの設定について	8
	UNIX ウィンドウマネージャの設定について	8
	共通デスクトップ環境 (CDE) の設定	9
	Motif に対する設定	9
	バックアップ、アーカイブおよびリストアの起動について	10
	UNIX でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの 起動	10
	NetBackup 管理コンソールの実行	11
	Windows でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェー スの起動	11
	[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] アイコン	12
第 3 章	バックアップまたはアーカイブ	17
	ファイルおよびディレクトリのバックアップまたはアーカイブ	17
第 4 章	リストア	25
	ファイルおよびディレクトリのリストア	25

概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [バックアップ、アーカイブおよびリストアについて](#)
- [インストールおよび構成について](#)
- [オンラインヘルプについて](#)

バックアップ、アーカイブおよびリストアについて

このマニュアルでは、**NetBackup** の新規ユーザーを対象に、基本的なバックアップおよびリストアの手順について説明します。

[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェースは、コンピュータ上の **NetBackup** クライアントソフトウェアのインターフェースです。**NetBackup** では、コンピュータ上に存在するファイル、フォルダまたはディレクトリ、ボリュームまたはパーティションをバックアップ、アーカイブおよびリストアすることができます。

バックアップかリストアが必要なコンピュータをクライアントといいます。データのバックアップと取得を管理するコンピュータをサーバーといいます。

[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェースは、システムで動作するように構成する必要があります。**NetBackup** 管理者がインストール処理の間にそれを行うことがあります。

バックアップについて

バックアップでは、選択した項目が宛先ドライブにコピーされ、元のファイルはソースドライブに残されます。

バックアップ操作を開始すると、バックアップ対象のデータは、コンピュータ上のクライアントソフトウェアによって **NetBackup** サーバーに送信されます。その後、データはサーバーからストレージデバイスに書き込まれます。

アーカイブについて

アーカイブでは、選択した項目が宛先ドライブにコピーされ、バックアップが正常に行われた後、その項目がソースドライブから削除されます。

アーカイブ操作を開始すると、バックアップ対象のデータは、コンピュータ上のクライアントソフトウェアによって **NetBackup** サーバーに送信されます。その後、データはサーバーからストレージデバイスに書き込まれ、元のファイルはソースドライブから削除されます。

リストアについて

リストアでは、選択した項目がサーバーのバックアップイメージから取得され、コンピュータ上にリストアされます。

リストア操作を開始すると、コンピュータ上のクライアントソフトウェアから **NetBackup** サーバーに対してデータが要求されます。サーバーはクライアントにデータを送信し、このデータを利用してリストアが行われます。バックアップイメージはサーバーに残ります。

ポリシーについて

NetBackup 管理者は、ポリシーを構成します。ポリシーとは、**NetBackup** がクライアントをバックアップするときに従う規則の定義です。

ポリシーには、**NetBackup** クライアントの自動的な無人バックアップのスケジュールを設定できます (サーバー主導バックアップ)。

また、ポリシーには、ファイルのバックアップを手動で実行可能な時間帯を定義できます (ユーザー主導バックアップ)。

たとえば、ユーザー主導のバックアップを実行可能な時間範囲 (ユーザー処理時間帯) が午前 8 時から午後 6 時であるとします。これ以外の時間帯には、ユーザーはバックアップまたはアーカイブを実行できません (ファイルのリストアはいつでも実行できます)。

バックアップイメージについて

NetBackup では、1 つのジョブによってバックアップされたすべての項目がバックアップイメージに格納されます。ファイルのリストアを行う場合、1 つ以上のバックアップイメージからリストア対象の項目を選択します。

(**NetBackup** 管理者が構成する) 一定の期間が経過すると、バックアップイメージの期限が切れる場合があります。期限が切れたバックアップイメージのファイルは、参照またはリストアできません。

インストールおよび構成について

通常、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースをインストールおよび構成するのは、**NetBackup** 管理者です。インストールと構成には次が含まれます。

- コンピュータ環境内のバックアップ対象となるコンピュータ上に、**NetBackup** クライアントソフトウェアおよびバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースをインストールして構成します。
- コンピュータ環境内で **NetBackup** サーバーと連携して動作するようにクライアントソフトウェアを構成します。

NetBackup 環境でユーザー主導の操作が許可されている場合、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを構成する必要はありません。

構成への変更が必要な場合は、**NetBackup** 管理者にお問い合わせください。

オンラインヘルプについて

このマニュアルでは、バックアップ、アーカイブおよびリストアタスクの基本的な手順について説明します。詳細情報はヘルプで利用可能です。

[ヘルプ (Help)]メニューからオンラインヘルプを開くか、ダイアログボックスの[ヘルプ (Help)]アイコンをクリックします。

次の表に、ヘルプで利用可能な情報の一部を示します。

バックアップとアーカイブのトピック	■ バックアップとアーカイブの形式 ■ ユーザー主導バックアップ ■ サーバー主導バックアップ ■ 完全バックアップ ■ 累積増分バックアップ ■ 差分増分バックアップ ■ True Image Backup
リストアのトピック	■ リストアの宛先 ■ リストアオプション ■ 特定の日付からのリストア ■ True Image Backup のリストア ■ 代替クライアントへのリダイレクトリストア (管理者のみ)
その他のトピック	■ リストアを行う項目の検索手順 ■ 他のバックアップサーバーを指定する手順 (ご使用の環境で許可されている場合) ■ ウィンドウ、メニューおよびダイアログボックスのインターフェースの参照項目

開始

この章では以下の項目について説明しています。

- [UNIX システムの設定について](#)
- [バックアップ、アーカイブおよびリストアの起動について](#)
- [\[バックアップ、アーカイブおよびリストア \(Backup, Archive, and Restore\)\]アイコン](#)

UNIX システムの設定について

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使い始める前に、UNIX 環境が正しく設定されていることを確認してください。

UNIX、Linux および Macintosh OS X システムの場合、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースは、Java ベースのグラフィカルユーザーインターフェースです。

以降の項で、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェース用に UNIX 環境を設定する方法について説明します。

p.8 の「[UNIX ウィンドウマネージャの設定について](#)」を参照してください。

p.9 の「[共通デスクトップ環境 \(CDE\) の設定](#)」を参照してください。

p.9 の「[Motif に対する設定](#)」を参照してください。

UNIX ウィンドウマネージャの設定について

ウィンドウ内をクリックすることでウィンドウがアクティブになるようにウィンドウマネージャを設定します。

自動フォーカスは有効にしないでください。自動フォーカスを有効にした場合、マウスのポインタをウィンドウ上に移動すると、そのウィンドウがアクティブになります。

NetBackup-Java インターフェースは、自動フォーカスを有効にしていると適切に実行されません。

UNIX の他のインターフェース

NetBackup は UNIX システムに追加インターフェースを提供します。

次のインターフェースを使用してユーザー主導の操作を実行できます。ただし Veritas は、ユーザー主導の操作にはバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの使用をお勧めします。

メニューユーザーインターフェース (MUI) このインターフェースは、クライアントシステムに接続可能な端末で使用できます。メニューインターフェースプログラムは、bp コマンドによって起動します。

MUI を使用する方法についてはインターフェースの bp のマニュアルページとヘルプを参照してください。

コマンドラインインターフェース (CLI) コマンドを使用すると、シェルプロンプトでバックアップ、アーカイブおよびリストア操作を実行できます。

コマンド情報については、『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』を参照してください。

共通デスクトップ環境 (CDE) の設定

NetBackup Java アプリケーションには、CDE ウィンドウマネージャが推奨されています。

CDE ウィンドウマネージャを設定するには次の手順を使用します。

CDE をバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェース用に構成する方法

- 1 CDE ウィンドウのフロントパネルで、[スタイル・マネージャ]アイコンをクリックします。
- 2 スタイルマネージャのツールバーで、[ウィンドウ]アイコンをクリックします。
- 3 [スタイル・マネージャ - ウィンドウ]ダイアログボックスで、[クリックでウィンドウをアクティブに]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。
- 5 ワークスペースマネージャを再起動するかどうかの確認メッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

Motif に対する設定

Motif ウィンドウマネージャを使用するには、次の手順に従います。

Motif に対して設定する方法

- ◆ 次のように、Mwm*keyboardFocusPolicy X リソースを設定します。

```
Mwm*keyboardFocusPolicy:explicit
```

バックアップ、アーカイブおよびリストアの起動について

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースは、次の方法で起動して実行できます。

UNIX NetBackup クライアントの場合	p.10 の「 UNIX でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動 」を参照してください。
Windows コンピュータの UNIX NetBackup クライアントの場合	p.11 の「 NetBackup 管理コンソールの実行 」を参照してください。
Windows NetBackup クライアントの場合	p.11 の「 Windows でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動 」を参照してください。

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースおよびその使用方法について詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

UNIX でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用して、ユーザーアカウントが存在する UNIX システム上で NetBackup クライアントにログインできます。バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースからは、そのクライアント上でのバックアップ、アーカイブおよびリストアを実行できます。

メモ: jbpSA コマンドのオプションについて詳しくは、jbpSA のマニュアルページを参照してください。

UNIX でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動する方法

- 1 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを実行するコンピュータにログインします。
- 2 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動するには、次のコマンドを入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/jbpSA &
```

- 3 [ログイン (Login)]ダイアログボックスで、バックアップ、アーカイブまたはリストアを実行するクライアントの名前を入力します。

そのクライアントに対して有効なユーザーアカウントおよびアクセス権が必要です。

- 4 ユーザー名を入力します。

- 5 パスワードを入力します。
- 6 [ログイン (Login)]をクリックします。

NetBackup 管理コンソールの実行

Microsoft Windows システムに管理コンソールがインストールされている場合、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースをコンソールから直接実行できます。このインターフェースを使用すると、NetBackup Windows または UNIX クライアントにログインして、そのクライアント上でのユーザー主導の操作を実行できます。NetBackup メニューから旧バージョンのクライアントを開始することもできます。

管理コンソールを開始する方法

- 1 [スタート]で[プログラム]、[Veritas NetBackup]、[NetBackup 管理コンソール (NetBackup Administration Console)]を選択します。
[旧バージョンの管理コンソール (Back-Level Administration Console)] フォルダを開いて、旧バージョンの管理コンソールを起動することもできます。
- 2 バックアップ、アーカイブまたはリストアを実行するクライアントの名前を入力します。
そのクライアントに対して有効なユーザーアカウントおよびアクセス権が必要です。
- 3 ユーザー名およびパスワードを入力します。
- 4 [ログイン (Login)]をクリックします。

Windows でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動

Windows システムでバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動するには次の手順を使用します。

Windows システムでバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動する方法

- 1 [スタート]>[プログラム]>[Veritas NetBackup]>[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]をクリックします。
- 2 NetBackup のアクセス管理を使用して NetBackup 環境へのアクセスを制御している場合は、ユーザー名、パスワードおよびドメイン情報の入力が必要となる場合があります。

[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]アイコン

表 2-1には、Microsoft Windows デスクトップに表示される可能性のある NetBackup アイコンについて記載されています。

表 2-1 Windows デスクトップの[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]アイコン

アイコン	説明
	[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]インターフェースを表します。Windows の[スタート]メニューおよび Windows エクスプローラに表示されます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行されていても、バックアップまたはリストアが行われていないことを示します。システムトレイに表示されます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行され、1 つ以上のリストア処理が行われていることを示します。システムトレイに表示されます。黄色い矢印が点滅している場合、NetBackup Client Job Tracker を開いてリストア操作の状況を確認することができます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行され、1 つ以上のバックアップ処理が行われていることを示します。システムトレイに表示されます。黄色い矢印が点滅している場合、NetBackup Client Job Tracker を開いてバックアップ操作の状況を確認することができます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行され、1 つ以上のバックアップ処理および 1 つ以上のリストア処理が行われていることを示します。システムトレイに、黄色い矢印が点滅している状態で表示されます。

表 2-2には、Windows に表示されるツールバーアイコンについて記載されています。

表 2-2 Windows の[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]のツールバーアイコン

アイコン	説明
	[バックアップ (Backup)]ウィンドウを開き、バックアップする項目にマーク付けできます。
	[リストア (Restore)]ウィンドウを開き、リストアする項目にマーク付けできます。
	[状態の表示 (View Status)]ダイアログボックスを開き、ユーザー操作の進捗を監視できます。

アイコン	説明
	[リストア (Restore)]ウィンドウの[NetBackup の履歴 (NetBackup History)]ペインのバックアップイメージを更新します。この機能は、[リストア (Restore)]ウィンドウが表示され、アクティブである場合だけ使用できます。
	[トラブルシュータ (Troubleshooter)]を開きます。
	バックアップ、アーカイブおよびリストアのヘルプを開きます。

表 2-3 には、インターフェース全体に表示されるアイコンについて記載されています。

表 2-3 [バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]アイコン

アイコン	説明
	[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]アイコン。
	バックアップアイコン。
	リストアアイコン。
	Windows でフロッピーディスクドライブを表します。
	Windows で論理ハードドライブを表します。
	Windows で CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブを表します。
	Windows でネットワークドライブを表します。
	Windows でクライアント PC を表します。
	閉じたディレクトリ (フォルダ) を表します。他の項目が含まれている場合と含まれていない場合があります。
	開いたディレクトリ (フォルダ) を表します。他の項目が含まれている場合と含まれていない場合があります。

アイコン	説明
	バックアップまたはリストアの対象として、すべての内容がマーク付けされているファイルまたはディレクトリ (フォルダ) を表します。
	バックアップまたはリストアの対象として、内容の一部がマーク付けされているディレクトリ (フォルダ) を表します。
	バックアップまたはリストアの対象としてマーク付けされていないファイルまたはディレクトリ (フォルダ) を表します。
	バックアップまたはリストアの対象としてすべての内容がマーク付けされていても、それ自体はマーク付けができない項目を表します。
	バックアップまたはリストアの対象として内容の一部がマーク付けされていても、それ自体はマーク付けができない項目を表します。
	それ自体はバックアップまたはリストアの対象としてマーク付けできないが、バックアップまたはリストアの対象としてマーク付け可能な項目を含む項目を表します。
	内容の一部がバックアップされたディレクトリ (フォルダ) を表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で Java ファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で Java クラスファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI でプログラムファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で HTML ファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で UNIX リンクを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で読み取り専用ファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI でテキストファイルを表します。
	ファイルを表します。Microsoft Windows では、他のアイコンを使用して、さまざまなファイル形式を表す場合があります。
	UNIX と Linux の Java GUI でビットマップ、GIF またはアイコンファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で実行中のバックアップまたはリストアを表します。

アイコン	説明
	UNIX と Linux の Java GUI で正常なバックアップまたはリストアを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で失敗したバックアップまたはリストアを表します。
	Windows で複数の Windows ボリュームシャドウコピーコンポーネントを表します。
	Windows で Windows のシステムサービスを表します。
	Windows で Windows のシステム状態を表します。
	Windows で Windows ボリュームシャドウコピーユーザーデータを表します。
	Windows で複数の Windows ボリュームシャドウコピーデータを表します。
	Windows で Windows ボリュームシャドウコピーライターを表します。
	Windows で Windows ボリュームシャドウコピーコンテナを表します。
	Windows で 1 つの Windows ボリュームシャドウコピーコンポーネントを表します。
	Windows で Windows レジストリ全体を表します。 レジストリは、HKEY_LOCAL_MACHINE および HKEY_USERS の 2 つの基本キーに対して表示されます。
	Windows でレジストリキーを表します。
	Windows で Windows のブートファイルを表します。
	Windows で Windows COM データベースを表します。
	Windows でネットワーク全体を表します。
	Windows で特定のネットワークを表します。

アイコン	説明
	Windows でネットワーク内のドメインを表します。

バックアップまたはアーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- [ファイルおよびディレクトリのバックアップまたはアーカイブ](#)

ファイルおよびディレクトリのバックアップまたはアーカイブ

バックアップでは、項目は別のドライブまたはストレージデバイスにコピーされます。元のファイルはソースドライブに残ります。

アーカイブの場合も、項目は別のドライブまたはストレージデバイスにコピーされます。バックアップが正常終了すると、元のファイルはソースドライブから削除されます。

次の項目をバックアップまたはアーカイブすることができます。

- UNIX および Linux
 - ファイル
 - ディレクトリ
 - パーティション

Windows

- ファイル
- フォルダ
- ボリューム
- レジストリキー
- システム状態コンポーネント
- システムサービスコンポーネント
- EFI システムパーティション (IA64 システムのみ)
- シャドウコピーコンポーネント

メモ: IA64 システムでは、シャドウコピーのバックアップにシステム状態コンポーネントと EFI システムパーティションが自動的に含まれます。システム状態コンポーネントのみをバックアップする場合には、正常にバックアップするために EFI システムパーティションも選択する必要があります。

次の手順を使用すると、ユーザー主導の (手動の) バックアップまたはアーカイブ操作を実行できます。

[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェースの使用方法について詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

バックアップ、アーカイブおよびリストアを使用してバックアップまたはアーカイブする方法

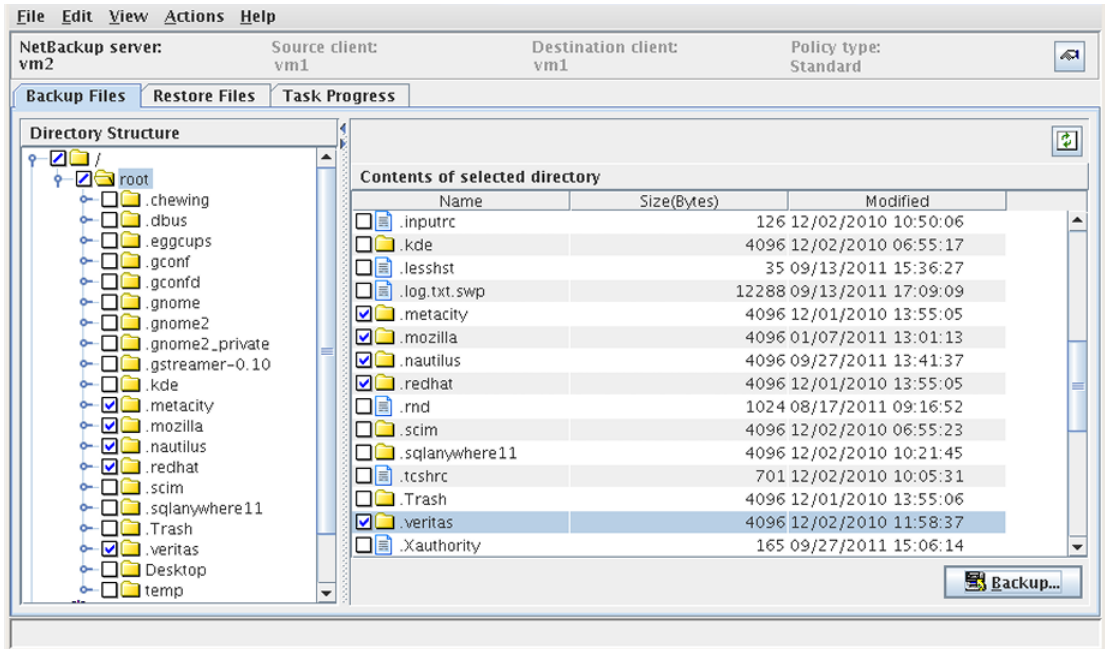
- 1 該当するプラットフォームに対して、次のとおりバックアップを開始します。

UNIX および Linux [バックアップ (Backup Files)] タブをクリックします。

メニューバーの下領域には、NetBackup が現在どのように操作に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

- NetBackup サーバー
- ソースクライアント
- 宛先クライアント
- ポリシー形式

次に、[バックアップ (Backup Files)] タブの例を示します。



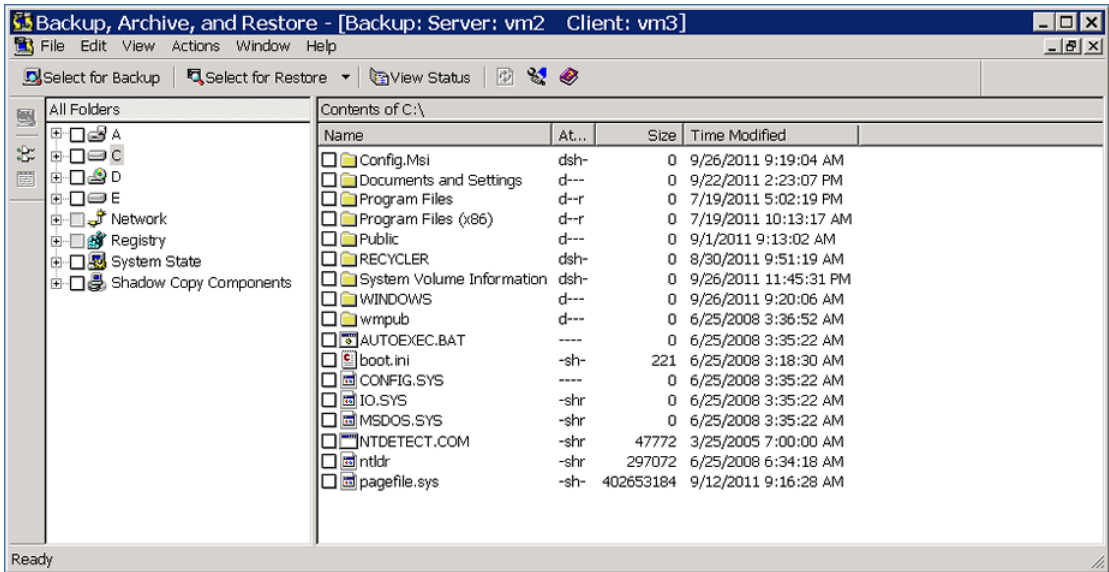
Windows

[バックアップ (Backup)] ウィンドウを開くには、[ファイル (File)]、[バックアップするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Backup)] の順にクリックするか、[バックアップの選択 (Select for Backup)] アイコンをクリックします。

ウィンドウのタイトルバーには、NetBackup が現在どのように操作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

- サーバー
- クライアント

次に、バックアップ処理時間帯の例を示します。



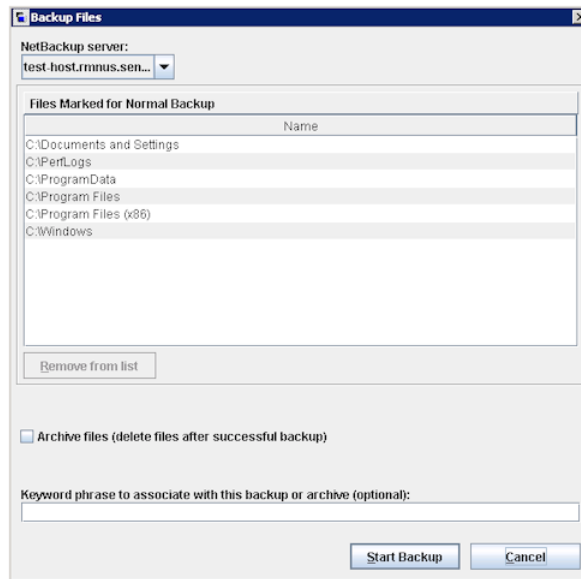
- 2 バックアップする項目を選択するには、画面で項目の左側にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。

個々の項目の隣にあるチェックマークは、それらの項目が選択されていることを示します。ディレクトリ(フォルダ)の隣のチェックマークは、ディレクトリのすべての項目が選択されていることを示します。ディレクトリの隣のスラッシュマークは、その中の一部の項目のみが選択されていることを示します。

3 選択した項目のバックアップ方法を設定するには、次の操作を実行します。

UNIX および Linux [バックアップ (Backup)] ボタンをクリックします。

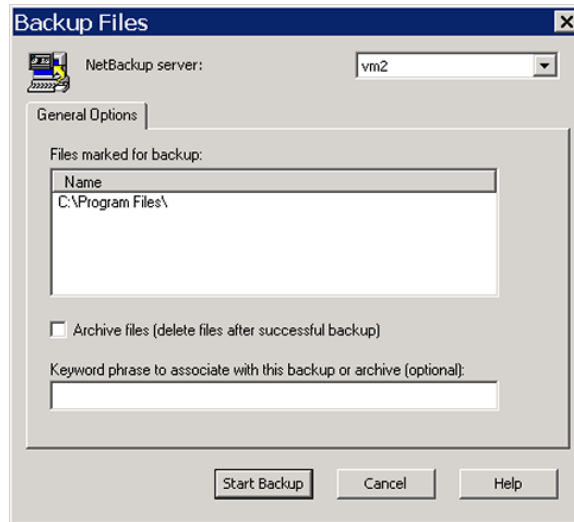
次に、[バックアップ (Backup Files)] ダイアログボックスの例を示します。



Windows

[処理 (Actions)]、[バックアップ (Backup)] の順にクリックします。

次に、[バックアップ (Backup Files)] ダイアログボックスの例を示します。



4 [バックアップ (Backup Files)]ダイアログボックスで、次のオプションのいずれかを選択または指定します。

NetBackup サーバー

ドロップダウンメニューから別のサーバーを選択して、バックアップ操作が実行される NetBackup サーバーを変更できます。

通常、別のプライマリサーバーを指定する必要はありません。ただし、複数のプライマリサーバーにバックアップを送信できる場合は、正しいプライマリサーバーを指定していることを確認してください。

リストからの削除 (Remove from list)(UNIX のみ)

[通常バックアップ用にマークされたファイル (Files Marked for Normal Backup)] リストには、バックアップのためにマークを付けたすべての項目が表示されます。削除する項目がある場合、その項目をクリックした後、このオプションをクリックします。

ファイルをアーカイブする (バックアップが正常に終了した後でファイルを削除する)(Archive files (delete files after successful backup))

バックアップが正常に行われた後で、ソースドライブから自動的に項目を削除します。

このバックアップまたはアーカイブと関連付けるキーワード句(オプション)(Keyword phrase to associate with this backup or archive (optional))

バックアップにキーワード句を関連付けるには、その情報をここに入力します。後でこれらのファイルのリストアを行う場合、バックアップされた項目をこのキーワード句で検索できます。

- 5 [バックアップの開始 (Start Backup)]をクリックします。
- 6 バックアップの進捗状況を表示するには、次の操作を実行します。

Windows システムの場合: 表示される[状態の表示 (View Status)]ダイアログボックスで、[はい (Yes)]をクリックします。

UNIX システムの場合: 表示される[タスクの進捗 (Task Progress)]タブで、[はい (Yes)]をクリックします。

メモ: バックアップジョブの進捗ログはデフォルトのログファイルに格納されます。ジョブのデフォルトのログファイルのパスは[タスクの進捗 (Task Progress)]タブの[上記のタスク選択の結果 (Results of the Task Selection Above)]ペインに表示されます。

バックアップが完了するまで数分かかる場合があります。バックアップ操作を開始した後、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]インターフェースを閉じて、他のタスクを実行できます。NetBackup はバックグラウンドで操作を継続します。

リストア

この章では以下の項目について説明しています。

- [ファイルおよびディレクトリのリストア](#)

ファイルおよびディレクトリのリストア

このトピックでは、バックアップしたものをリストアする方法を以下に説明します。

- 通常バックアップまたはアーカイブバックアップから。
- アレイベースのスナップショットからの個々の項目。

通常バックアップまたはアーカイブバックアップの手順には、次のタスクが含まれています。

- リストアを行う項目を検索します。
- 項目をリストアする宛先を選択します。
- 適切なリストアオプションを選択します。
- リストアのジョブ優先度を変更します (任意)。

他のリストア形式については、オンラインヘルプを参照してください。

ファイルとフォルダをリストアするには

- 1 次のようにリストアを開始します。

UNIX および Linux ■ [リストア (Restore Files)]タブをクリックします。

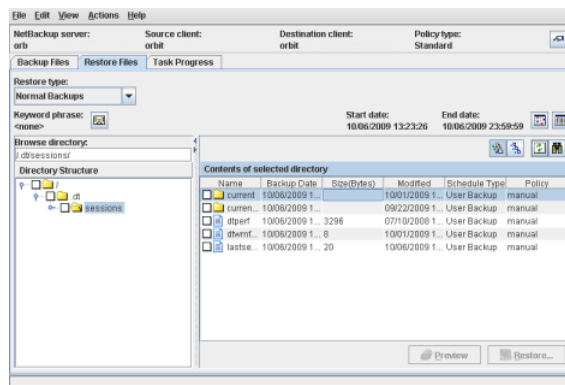
メニューバーの下領域には、NetBackup が現在どのように操作に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

- NetBackup サーバー
- ソースクライアント
- 宛先
- ポリシー形式
- [リストア形式 (Restore type)]ド롭ダウンリストで、[通常バックアップ (Normal Backups)](デフォルト) または[アーカイブバックアップ (Archived Backups)]のいずれかを選択します。
- [表示 (View)]、[更新 (Refresh)]の順にクリックします。

インターフェースの右ペインでディレクトリを選択した場合、最新のイメージのみがリストア用を選択されます。左ペインでディレクトリが選択された場合は、すべての時間範囲のイメージが選択されます。

ディレクトリからすべてのデータをリストアすることが目的の場合は、左側のペインからディレクトリを選択します。ディレクトリを選択すると、選択した時間範囲のすべてのイメージが追加され、リストアされるデータ量が増えます。この処理はすべてのバックアップ形式に適用されます。

次に、[リストア (Restore Files)]タブの例を示します。



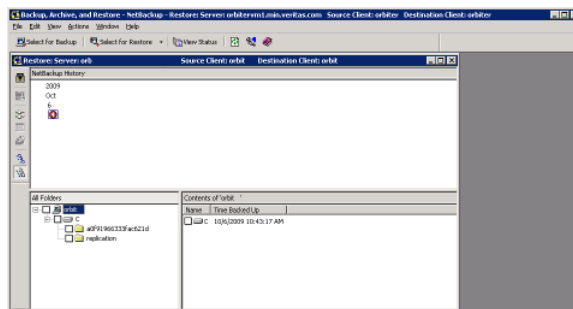
- Windows の場合 ■ [ファイル (File)]、[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]の順にクリックし、[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)]または[アーカイブバックアップからリストア (from Archived Backup)]のいずれかを選択します。

NetBackup によってバックアップイメージが取得され、リストア可能なファイルのリストが作成されるまでに、時間がかかる場合があります。

ウィンドウのタイトルバーには、NetBackup が現在どのように操作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

- サーバー
- ソースクライアント
- 宛先クライアント

次に、リストアウィンドウの例を示します。



- 2 リストアする項目を選択するには、画面で項目の左側にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。

個々の項目の隣にあるチェックマークは、それらの項目が選択されていることを示します。ディレクトリ (フォルダ) の隣のチェックマークは、ディレクトリのすべての項目が選択されていることを示します。ディレクトリの隣のスラッシュマークは、その中の一部の項目のみが選択されていることを示します。

インターフェースの右ペインでディレクトリを選択した場合、最新のイメージのみがリストア用に選択されます。左ペインでディレクトリが選択された場合は、すべての時間範囲のイメージが選択されます。

ディレクトリからすべてのデータをリストアすることが目的の場合は、左側のペインからディレクトリを選択します。ディレクトリを選択すると、選択した時間範囲のすべてのイメージが追加され、リストアされるデータ量が増えます。この処理はすべてのバックアップ形式に適用されます。

3 NetBackup でリストアを実行するために必要なリムーバブルメディア (テープなど) のリストをプレビューするには、次を実行します。

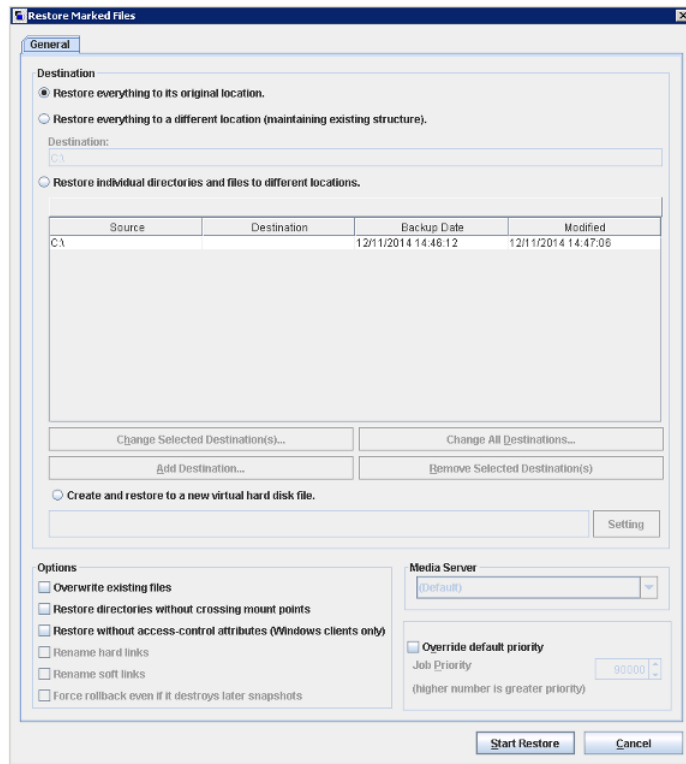
- Windows システムの場合、[処理 (Actions)]、[メディアのプレビュー (Preview Media)] の順にクリックします。
- UNIX システムの場合、[プレビュー表示 (Preview)] をクリックします。

リストアする項目がディスクストレージユニット上に存在するバックアップイメージにある場合は、プレビューにメディアは表示されません。

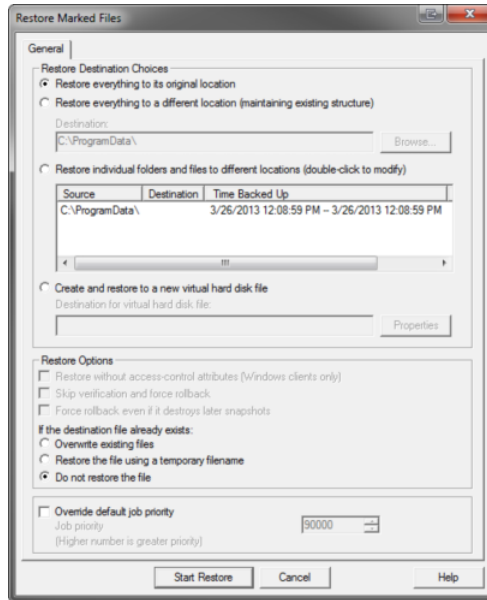
[OK] をクリックして、このダイアログボックスを閉じます。

4 選択した項目のリストア方法を設定するには、次を実行します。

- UNIX システムの場合、[リストア (Restore)] をクリックします。
次に、[マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)] ダイアログボックスの例を示します。



- Windows システムの場合、[処理 (Actions)]、[マークされたファイルのリストアの開始 (Start Restore of Marked Files)] の順にクリックします。
次に、[マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)] ダイアログボックスの例を示します。



5 [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスで、リストアの要件を満たすために次のオプションを選択します。

宛先 次の宛先オプションのいずれかを選択します。

(Destination)

- 元の位置にすべてをリストア (Restore everything to its original location) (デフォルト)
 - すべてを異なる位置にリストア (既存の構造を維持) (Restore everything to a different location (maintaining existing structure))
 - 個々のディレクトリやファイルを異なる場所にリストア (Restore individual directories and files to different locations)、個々のフォルダおよびファイルを異なる位置にリストア (Restore individual folders and files to different locations)
 - 新規仮想ハードディスクファイルを作成してリストア (Create and restore to a new virtual hard disk file) (Windows システムのみ)
- 各オプションについて詳しくは、ヘルプを参照してください。

リストアオプション
(Restore Options)

UNIX システムでは、次のリストアオプションから選択します。

- 既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)
- クロスマウントポイントなしで、ディレクトリをリストア (Restore directories without crossing mount points)
- アクセス制御属性なしでリストアする (Windows クライアントのみ) (Restore without access-control attributes (Windows clients only))
- ハードリンクの名前の変更 (Rename hard links)
- ソフトリンクの名前の変更 (Rename soft links)

Windows システムでは、次のリストアオプションから選択します。

- アクセス制御属性なしでリストアする (Windows クライアントのみ) (Restore without access-control attributes (Windows clients only))
- 既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)
- 一時ファイル名を使用してファイルをリストア (Restore the file using a temporary filename)
- ファイルをリストアしない (Do not restore the file) (デフォルト)

各オプションについて詳しくは、ヘルプを参照してください。

ジョブの優先度 (Job Priority)

[デフォルトの優先度を上書きする (Override default priority)] チェックボックスをクリックして優先度番号を設定することによってこのリストアの優先度を変更できます。

デフォルトは 90000 です。利用可能な範囲は 0 から 99999 です。数字が大きいほど優先度は高くなります。

この機能について詳しくは、ヘルプを参照してください。

6 [リストアの開始 (Start Restore)] をクリックします。

7 リストアの進捗状況を表示するには、次を実行します。

- Windows システムでは、表示される [状態の表示 (View Status)] ダイアログボックスで、[はい (Yes)] をクリックします。
- UNIX システムでは、表示される [タスクの進捗 (Task Progress)] タブで、[はい (Yes)] をクリックします。

メモ: バックアップジョブの進捗ログはデフォルトのログファイルに格納されます。ジョブのデフォルトのログファイルのパスは [タスクの進捗 (Task Progress)] タブの [上記のタスク選択の結果 (Results of the Task Selection Above)] ペインに表示されます。

リストアが完了するまで数分かかる場合があります。リストア操作を開始した後、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェー

スを閉じて、他のタスクを実行できます。**NetBackup** はバックグラウンドで操作を継続します。